

文化の窓

県立博物館 企画展

「ふくしまの顔」を開催

● 会期 四月十六日～六月十日
● 会場 県立博物館

顔はわたしたちにとって、大変身近な存在で、顔にあらわれる喜怒哀楽の表情は、日常生活に重要な役割を果たしています。

顔は原始から現代に至るまで、さまざまな資料にいろいろな形で表現されてきました。今回は、それらを以下の三テーマに分けて展示しています。

(一) 祈りとまじない

資料に顔がえがかれる場合には、何らかの信仰がその裏側にひそんでいる場合が多いようです。ここでは、



◀ 鈴石神社の太々神楽面 (猿田彦)

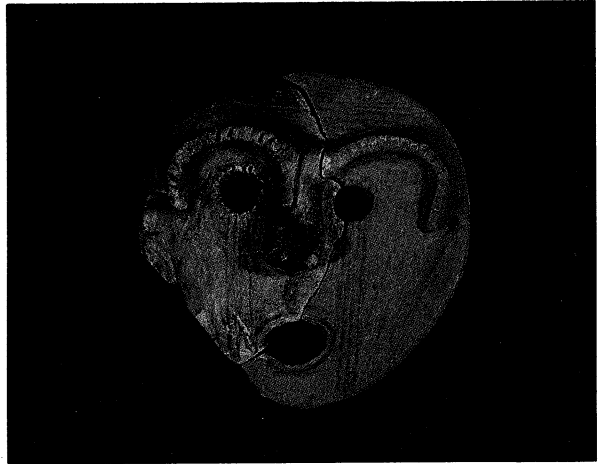
それらの顔から、原始時代から変化するのではない祈りの心をテーマにしました。

(二) 化身

ここでは、人間が神に変身するための道具類や、女性が美しく変身するための用具類を扱っています。

(三) 人形とおもちゃ

人形はヒトガタとして、悪霊をそれに移す一種の形代として作られ、その後子どもた



▲ 土面 (新地町三貴地貝場)

ちのおもちゃとなったものです。このコーナーでは、さまざまな人形やおもちゃの顔を紹介いたします。

今回の展示は、一つの専門分野や時代にとらわれず、「顔」という身近な素材を通して、人間の心を総合的に見てみようとする、当博物館では、はじめての試みです。できるだけ親しみやすい展示にしようとして努力したつもりですので、「顔」の集大成をお楽しみください。



▶ おもちゃの顔(だっこちゃんの顔)

◀ 関下人形 (人形浄瑠璃の顔)

